

# 英語科学習指導案

日 時 令和4年11月8日(火)  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年A組34名  
会 場 集会室  
授業者 工藤 卓大

## 1 単元名 Lesson 5 Things to Do in Japan (NEW CROWN English Series 2)

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

これまで生徒は、様々な活動を通して、自分の考えや気持ちを英語で表現する力を高めてきた。9月末実施の授業アンケートによると、2学年の生徒の約75%が、「英語は好きか」という質問に肯定的に答えている。確かに、身近な話題や自分のことを英語で話す場面においては、多くの生徒が積極的に活動に参加している。授業の中で、英語使用の必然性がある場面はALTとの会話のみ経験している。その中で、自分の好きなことを紹介するといった、自分自身に関わることを英語で伝える段階から、SDGsについての自分の考えを伝えるなど、英語で伝える内容の幅を少しずつ広げながら、英語を使用している。

一方で、苦手な領域として、「書くこと」や「話すこと [やり取り]」などの表現領域を挙げる生徒が多かった(表1)。中でも書くことに関しては、記述の構成に不安を覚えている生徒が多い。これまでも、自分が口頭で表現したことを文章化することで、相手に伝わりやすい構成で書くことについての練習を積んできたが、アンケートの結果から、より一層力を入れて授業で取り組んでいる。本単元では、生徒の実態に応じた言語活動を仕組むため、「クラスメイトや留学生に向けた英字新聞を作成する」活動を行う。表現領域の活動を何度も繰り返し行うことで、自信をもって発話や筆記ができる姿を目指したい。

表1 授業アンケート

一番苦手な領域	回答 (%)
聞くこと	13.4
読むこと	8
話すこと [やり取り]	24.4
話すこと [発表]	19.7
書くこと	36.2

#### (2) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(5) 書くこと イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする」を中心に、複数領域にまたがる統合的な言語活動を進めていくことができる単元である。教科書題材として、国際交流や日本文化の紹介が扱われている。生徒は、身近な地域と海外を比較しながら、互いに住んでいる国や地域の魅力を発信することを学ぶことができると思う。本題材を基に、単元のゴールを英字新聞を作成することと設定する。ただ単に調べたことを記事にするのではなく、インタビューした内容を記事にすることで、生徒自身が今もっている外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を広げたり、深めたりしながら学びを豊かにすることを目指したい。身近な地域のよさを、海外と比較しながら伝える活動を行ったり、実際に海外の方にインタビューをしたりすることで、より内容に深まりのある英字新聞を作成できるようにしたい。言語材料としては比較表現を含む文を学習する。実際に新聞記事を作成する際、表やグラフなどを用いて読み手に伝わりやすい記事を作成するために活用できると考える。本単元に関わらず、何度も繰り返し活用していく中で、定着を図る。

#### (3) 教科研究との関わり

本校英語科では、教科研究主題を「互いの多様性を認め合い、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力(表2)を以下の通り整理した。

表2 本校英語科で育成を目指す資質・能力

思考力等	コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、言葉の曖昧さに耐えながら、習得した知識・技能を活用して、外国語を用いて柔軟に自分の考えを伝え合う力。
協調性等	相手を尊重し、傾聴や考えの深化・再構築をしながら、外国語を用いて双方向のコミュニケーションを図ろうとする態度。
主体性等	多様な話題に好奇心・探究心をもち、自らの感性を磨きながら、外国語を用いて豊かにコミュニケーションを図ろうとする態度。

本単元のまとめの活動である、「クラスメイトや留学生に向けた英字新聞を作成する」ことであるため、本単元では特に、次の二つの手立てから資質・能力の育成を目指す。

### 手立て1 研究の視点(1) 個別最適な学びと協働的な学び —主体的な学習調整—

本校英語科における個別最適な学びの一環として、到達を目指すパフォーマンスの姿を表したルーブリックを基に、生徒が必要感に応じて教材や手法を選択することが挙げられる。自分たちで検討を重ねて作り上げたルーブリックの上位レベルに到達させるために、学習に主体的に取り組ませたい。また、他者とのやり取りや教え合いの中での気づきを反映させて自分で英文を再構築していく中で、より学習に粘り強く取り組むことができると考える。

生徒によって英文を書く速さや内容の正確性など、学力差は大きい。そこで、活動の際に教師が一律に制限時間を設けるのではなく、早く終わった生徒は終わった生徒同士で互いに文章を読み合いながら学びを深めたり、自分の作品を直したりするなど、学びを止めないための手立てを講じる。また、支援が必要な生徒が、自分の足りない部分を級友の作品から学び、取り入れることができるよう、必要に応じて作品等を閲覧できるような状態を整える。

### 手立て2 研究の視点(2) ICTの効果的な活用 —学びのモニタリング—

本校英語科におけるICTの効果的な活用として、過去と現在の学びを接続する「学びのモニタリング」を行う。学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」を用いることで、年度をまたいだ個別のパフォーマンスの比較を容易に行うことができる。生徒は単元シート上に録音した音声や作品を蓄積し、後から聞き直したり、見返したりすることで授業や単元の前後を比較し、変容や成長を実感できる。

## 3 単元計画

### (1) 単元の目標

クラスメイトや留学生に、お互いの国や地域の魅力を知ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

### (2) 評価規準(「書くこと」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 比較を含む文の特徴やきまりを理解している。 [技能] インタビューした内容(国の文化・特徴等)について、事実や自分の考え、気持ちなどを正確に書く技能を身に付けている。	クラスメイトや留学生に、お互いの国や地域の魅力を知ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	クラスメイトや留学生に、お互いの国や地域の魅力を知ってもらうために、事実や自分の考え、気持ちなどを整理・改善し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。

### (3) 指導の計画

時	学習課題 ■ねらい 主な言語活動等(丸数字) 関連領域: <b>L</b> 聞くこと <b>R</b> 読むこと <b>S(U)</b> 話すこと[やり取り] <b>S(P)</b> 話すこと[発表] <b>W</b> 書くこと	関連する評価の観点		
		知技	思考	態度
1	単元全体の見通しをもと。 ■単元計画を知り、学びの見通しをもったり学習計画を立てたりする。 ①自己のパフォーマンスを分析する。 ・昨年度のパフォーマンス動画を視聴する。 ・既にできること、本単元で新たに獲得したいこと等を言語化する。 ②個人目標を設定する。 ③単元のパフォーマンス課題に対するルーブリックを作成する。 <ルーブリック作成の手順> i) 「良いパフォーマンス」の要素(言語面、内容面)を挙げる。 ii) B評価(全員が到達したい基準)、A評価の記述語を考える。 iii) S評価の記述語、A・B評価に各生徒が追記する。(個人目標) ④単元目標達成のために、単元途中で到達したい姿を記述する。 ・内容のまとまり(教科書題材や言語活動の領域)ごとに言語化する。			

2 ~ 4	<p>インタビューした内容を比較しながらまとめよう。</p> <p>■新出文法表現を学んだり、インタビューの手法を考えたりする。</p> <p>①新出の言語表現（比較）の特徴やきまり、使い方を確認する。R W</p> <p>②インタビューの結果について、事実などを整理しながら、相手に分かりやすく伝え合う。L R S(O)</p> <p>③インタビューした内容をまとめた記事を作成する。W</p>	<p>※第1～10時は「記録に残す評価」は行わない。やり取り中の様子や提出された音声、記述、単元シートに対して、全体及び個別にフィードバックすることで指導に生かす。</p>					
5 ~ 6	<p>メールの要点をまとめよう。</p> <p>■読み手が読みやすい文章構成について考える。</p> <p>①教科書本文を通して、比較の使い方を知る。R W</p> <p>②題材の概要を把握し、文章構成についての理解を深める。R W</p>				<p>○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○</p>		
7 ~ 9 (本時)	<p>ALTの先生にアメリカの魅力や文化についてインタビューしよう。</p> <p>■新聞作成のために、ALTに住んでいる国や地域のことについてインタビューをして情報を集める。</p> <p>①ALTに住んでいる地域のことについての新聞を作成するために、インタビューをする。L S(O)</p> <p>新聞記事を書き、内容をよりブラッシュアップしよう。</p> <p>■自分が作成した記事をよりよいものにする。</p> <p>①インタビューした内容を基にして、英字新聞の記事を作成する。W</p> <p>②ルーブリックを用いて自己分析を行ったり、教え合ったりして今後に向けた改善点を把握する。(言語面、内容面) W</p> <p>グループで新聞を作成しよう。</p> <p>■クラスメイトに、アメリカの魅力を知ってもらうために、新聞を作成し、評価場面向けての課題や改善点を把握する。</p> <p>①インタビューした内容を基に、まとまりのある文章を書く。W</p> <p>②ルーブリックを基に、達成状況を振り返り、今後の課題を明確にする。</p>						
10 ~ 12	<p>留学生に住んでいる国や地域の魅力や文化についてインタビューしよう。</p> <p>■新聞作成のために、留学生に住んでいる国や地域のことについてインタビューをして情報を集める。</p> <p>①留学生の住んでいる地域のことについての新聞を作成するために、インタビューをする。L S(O)</p> <p>新聞記事を書き、内容をよりブラッシュアップしよう。</p> <p>■自分が作成した記事をよりよいものにする。</p> <p>①インタビューした内容を基にして、英字新聞の記事を作成する。W</p> <p>②ルーブリックを用いて自己分析を行ったり、教え合ったりして今後に向けた改善点を把握する。(言語面、内容面) W</p> <p>グループで新聞を作成しよう。</p> <p>■クラスメイトに、インタビューした相手の国や地域の魅力を知ってもらうために、新聞を作成し、本番までの課題や改善点を把握する。</p> <p>①インタビューした内容を基に、まとまりのある文章を書く。W</p> <p>②ルーブリックを基に、達成状況を振り返り、今後の課題を明確にする。</p>						
後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <p>①類似の課題について、新聞記事を作成する問題。W</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較の表現を、必要に応じて正しく使えているか【知識・技能】</li> <li>・必要な情報を整理し、まとまりのある文章を書くことができるか【思考・判断・表現】</li> </ul>						

#### 4 本時について

##### (1) 指導目標

ALT の出身国（アメリカ）について作成した新聞を基に、内容面・言語面を修正し、よりよい新聞記事が書けるようにする。

##### (2) 授業構想

本時は、前時のインタビュー活動で得た情報を基に、アメリカのことについて作成した記事をブラッシュアップする1時間である。

導入では、前時のインタビューについて生徒とやり取りをしながら単元のゴールを再確認し、新聞修正のための視点について想起させる。展開では、前時に作成した新聞をブラッシュアップする。その後、ロイノートを用いて、お互いの記事を読み合う。ここで、自分になかった視点や、構成の工夫を級友の作品の中から感じ取らせたい。適宜ルーブリックと照らし合わせて、よりよい構成にできるよう、推敲を重ねさせる。また、インタビューの動画については、必要に応じていつでも見られるようにしておく。自分が聞き取れなかった部分、うまく情報を引き出せなかった理由などを検討させ、本単元末の新聞作成の際のインタビューの足掛かりとしたい。終結では、内容面と言語面でそれぞれどのように修正したか、修正しようとしているかを共有し、振り返った上で、次時以降のインタビュー、新聞作成に繋げたい。

##### (3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入	<p><u>1 前時までの内容の復習</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元目標や、前時のインタビュー、次時の内容についてやり取りを行いながら単元の学びを想起する。</li> </ul>	
	<p><u>2 学習課題の共有</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元目標の達成に向け、インタビューを基に作成した新聞記事を、修正することを確認する。</li> </ul>	
展開	新聞記事の内容を、よりブラッシュアップしよう。	
	<p><u>3 新聞記事の修正（個別）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の力でルーブリックを基に英文を修正する。</li> <li>必要に応じて、他の生徒の作成した新聞を読んだり、インタビューを見返したりして、ルーブリックの基準に近づけるよう推敲していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて全体共有をし、修正のポイントを確認しながら進める。</li> </ul>
	<p>&lt;修正の視点(例)&gt;            【内容面】自分の地域との比較（共通点・相違点）、事前に調べた内容との比較、記事としてのふさわしさ            【言語面】構成、語彙や文法の正確さ</p>	
展開	<p><u>4 新聞記事の修正（協働）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルーブリックを基に、内容面・言語面それぞれについて、グループ内でお互いの記事の改善点を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて全体共有をし、修正のポイントを確認しながら進める。</li> </ul>
	<p><u>5 新聞記事の修正（個別）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで挙げた改善点や修正点を基に、自分の記事をさらにブラッシュアップする。</li> </ul>	<p>○「記録に残す評価」は行わない。 やり取り中の様子や提出された音声、記述、単元シートに対して、全体及び個別にフィードバックすることで指導に生かす。</p>
終結	<p><u>6 学びの振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事をどのように修正したか、あるいはどの部分がルーブリックと照らし合わせて足りていた／足りていなかったのかを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元シートの活用</li> </ul>